

小・中学校での現状の課題・問題点

子どもたちにとって望ましい教育環境とは

【少子化・クラス数・人間関係】

児童生徒の減少

共通の課題として、全区で児童生徒の減少が進んでいる。その減少の速度は速くなっていると感じる。

クラス数の減少

将来的に全ての小学校で1クラス。複式学級になるのも見えてきている。

クラス替えできない

特に中学生には厳しい面があるのでは。

人間関係の固定化

共通の課題として、単学級になると人間関係が固定化されることが心配。

深刻なのは中学校

中学校の方が生徒の減少による問題が深刻ではないか。

連鎖する課題

児童生徒の減→クラス数減→教員数減(専科減)→部活動の減→学校減→人口減→

【クラス数・人間関係・社会性】

クラス替えができる

クラスが複数あり、クラス替えができる学校。

社会性を学ぶ場所として

社会性を学ぶためにある程度の規模は必要。

いろんな個性と出会う

人数が多いことが魅力、切磋琢磨する環境

【学習】特に中学校

免許外指導

クラスの減少で教員の配置が減ると、免許を持っていない教科を指導することになる。

教育の低下

免許外教員では、専門性のある中学の教科指導は難しい。

教員の指導力向上

経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置が難しく、教員同士の研鑽が図れない。

学力の保障に不安

免許外、掛け持ち授業では学力の保障に不安が残る。免許外授業は教員の負担大

教員の確保

クラスの減少で教員の配置数が減る。教員の配置が難しくなる。

教員の知られていない授業以外の仕事

授業に関する準備、教材研究、テストづくり、採点等のほかに、学校運営上(生徒指導、進路指導、PTA、学力向上、人権、防災、清掃指導など)の業務がある。

【学習】共通として

一人一人にきめ細やかな丁寧な指導

つまずきや困り感がわかる少人数学級。

学力の保障に向け様々な取組

教員の適正配置により学力の保障を

教員数の十分な確保

町予算でも先生を確保するぐらいの覚悟

教員が子どもに向き合える時間の確保

教職員がいそいそと働ける環境

バランスのとれた校務分掌

校務が集中しない分担できる教員の確保

【行事】共通として

集団活動に活気がない

運動会や音楽活動などの集団活動も大切な学習機会。

【行事】共通として

集団活動は一定の規模必要

子どもの数が多いと、運動会・体育祭等が盛り上がる。

小・中学校での現状の課題・問題点

子どもたちにとって望ましい教育環境とは

【部活動】中学校

部活動の選択肢減

生徒数が少なくなり、部活動の数が減り選択肢が少なく、やりたい部活動を選べないのは残念。生徒指導にとっても大事な部分。

すでに合同チーム

チームを組めない競技もあり、他校に受け入れてもらえなければ試合に出られない。

部活動が成り立たない

生徒数の減少により部活動が成り立たない。

部活動の指導者不足

部活動担当のなり手がいない。地域へ移行か。

部活動は必要か？

部活動よりも大事なことがあるのでは。

部活動は必要だ！

中学生活の大半は部活動、魅力ある学校の要素、社会性を培う場所

教育・生徒指導の一環である

顧問との関係性が高いことは、生徒にとってもメリット

【部活動】中学校

【資料3-1】

選べる部活動

部活動は生徒指導において大切。ある程度の生徒数を確保し、選択できる部活動に。地域の協力が得られる体制づくり。

地域と共に

将来、休日の部活動は地域との協働を模索

部活動のない学校

出来た時間を学習等に充てることができる

【通学】特に小学校で

低学年の登下校

小学校では一緒に登下校する児童が少ない。

時間を通学に使うことへの疑問

子どもたちの有意義な時間について。

【通学】特に小学校

安全で安心な登下校

安全で安心な通学、小学校の徒歩通学。

子どもたちの有意義な時間

通学に費やす時間を子どもたちのために

【PTA】共通として

PTA役員問題

会員数が減り、活動の負担が大きくなる。

【PTA】特に小学校

顔の見えるPTA活動

PTA活動がスムーズに進む。

【地域・まちづくり】共通として

地域の不安

地域に学校がなくなることで、地域住民としてはさみしい思いがある。小学校は地域の宝。可能な限り残したい。

定住対策への影響

学校は子育て世代の定住要件として重要なファクター。まちづくり対策も必要。

【地域】共通として

子どもは地域で育てたい

地域住民や特色ある文化との連携。

【財政】

町の財政が不安

子どもたちが望む環境を用意したいが財政が心配。

【財政】

【家庭】

多様化する保護者、価値観

多様化する家庭、保護者、環境、社会に不安

【家庭】

時代に合わせた教育環境

どんな児童生徒も受け入れられる体制づくり